

ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）

# 和歌山・台風 12 号緊急水害支援 活動報告書

実施期間 2011 年 9 月 7 日～11 月 13 日  
活動場所 和歌山県新宮市熊野川町周辺

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

[英語サイト／English site] <http://peaceboat.jp/relief/>

# 圧倒的な人手不足。 東北での経験が活かした災害ボランティア

2011年9月より、ピースボート災害ボランティアセンター(以下、PBV)では、紀伊半島を襲った台風12号水害への緊急支援を行いました。同時に活動が続いている東日本大震災とは、規模や種類も異なる災害でしたが、この地域では50年ぶりとも言われるほど大きな被害を受けていました。

PBVでは、被災した地域の中でも交通の便が悪く、支援が行き届きづらい和歌山県新宮市熊野川町での支援を決めました。マスコミ報道も少なく、当初は清掃作業に当たる人手が圧倒的に不足していました。その後、東日本大震災でのボランティア経験者や関西からの若者たちが集まり、2ヵ月に渡って緊急支援を行いました。



## 新宮市熊野川町の被害状況

世界遺産の熊野古道で知られるこの地は、豊かな山林と熊野川の恵みが美しい地域です。2011年9月2日～4日にかけて上陸した台風12号は、最大20mと言われる大洪水と土砂災害を引き起こしました。道路や橋も通行止めになり、新宮市からさらに車で2時間近くかかることから、支援の手は遅れていました。

行政による支援は、民家までは届きません。熊野川町には高齢者も多く、家屋から土砂や壊れた家財道具を運び出し、生活ができる状態まで復旧するにも、多くのボランティアの人手が必要でした。大きな支援団体として継続して熊野川町で活動を行ったのはPBVだけ。「新宮市災害ボランティアセンター熊野川サテライト」(新宮市社会福祉協議会が運営)と協力し、活動を開始しました。



熊野川町被害状況(2011.10.01時点)  
※和歌山県災害対策本部HPより



人口	1,645人(925世帯)
死者	6人
全壊・半壊家屋数	213棟
浸水(床上・床下)家屋数	70棟

# プロジェクトの概要・実績

PBV では、台風 12 号の発生を受け、9 月 7 日にボランティア・コーディネーター、セーフティーオフィサーを含む先遣スタッフを派遣。和歌山県新宮市、那智勝浦町、三重県紀宝町などを回った後、支援が遅れている熊野川町で、ボランティアによる土砂のかきだしや清掃活動を始めました。市町村合併などの影響もあり、社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターの運営も人手不足。住民の方々、個人ボランティアも使用する資材倉庫での管理作業も引き受けました。



**ボランティア数 派遣人数 369 人(日別のべ活動人数 1,730 人)**  
**土砂のかきだし、清掃実施 161 件**  
**物資倉庫管理(災害ボランティアセンター運営サポート) ~最終日まで**

## ボランティア参加者の声



私が所属する「Youth for 3.11」は、東日本大震災をきっかけにできた学生ボランティア団体です。今回、東北のボランティアに参加が難しかった関西の学生メンバー約 100 名の想いを形にすることができたので、団体としても新しい一歩になりました。個人的にも、募集の段取りや現場での経験は、今後の災害時にも活かしていけると思っています。

脇山知花(22 歳学生、Youth for 3.11 関西プログラムリーダー)



メディアや世間の関心からも遠かった紀伊半島の被災地。東日本大震災で PBV の活動に参加し、今回もその時の仲間たちと活動できたことはとても心強かったです。緊急支援は終了しましたが、今度はあの雄大な大自然と地元の方々に出会い、のんびりと過ごすために訪れたいと思います。

片山裕二(45 歳会社員)

## 活動カレンダー

9 月	3 日	台風 12 号が紀伊半島に上陸
	7 日	東京から先遣スタッフ 3 名が出発
	8 日	先遣スタッフが新宮市に到着、現地調査開始
	11 日	PBV 現地ボランティア・テントサイト設置、ボランティア募集開始
	13 日	6 名のボランティアが合流、清掃作業開始
	14 日	新宮市災害ボランティアセンター「熊野川サテライト」開設 物資倉庫の管理作業開始
	20 日	台風 15 号が上陸、集会所へ一時避難
	25 日	新ボランティアサイト(旧小口小学校)へ移動
10 月	13 日	熊野川小・中学校が再開
11 月	6 日	「熊野川サテライト」閉所式
	13 日	PBV ボランティア解散

# 熊野川町からの声

## 「ボランティアの人手がなければ、とても終わらなかった」

10月に清掃活動に入った廣井さん宅は、熊野川沿いの一軒家。台風12号により完全に浸水しました。「まさか、自分の家が水に浸かるとは…」。台風から一夜明けて戻った我が家は、変わり果てていました。水が引いた後も、畳やタンスが玄関や扉を塞ぎ、最初は家の中に入ることもできなかったそうです。「家財道具もすべて捨てるしかなくて。あそこに置いていたはずのものを探しては、ああ、あれも無くなってしまったんだ」と、お話を伺った、台風から一ヶ月以上経った当時でも、ふさぎ込んでしまうことがあるとのことでした。

廣井さん宅でお手伝いした作業の大部分は、広大な畑の泥出し。業者に頼んで片づけてもらったりもしたそうですが、重機が入れない場所が問題でした。息子さんは離れて暮らしており、普段は老夫婦二人での作業。コツコツ作業しても、雨が降る度にまた新しい土砂が流れ込んできてしまう、その繰り返しでした。PBVでは、それまで自宅や建物、道路脇の側溝清掃などを中心に作業していましたが、先の生活も考えて畑の泥出しもお手伝いさせていただくことにしました。

作業を始めた当時は、掘っても掘っても元の地面が見えないほどの泥の量、30cm以上のところもありました。雨が降っても土砂が入り込まないよう、畑の周囲の片づけも必要でした。多い時には、一度に15人のボランティアで一斉に作業し、完了まで12日間を費やしました。

廣井さんからは「想像だにできなかったことが起こって、家も、畑もダメになって落ち込んでいたけれど、ボランティアの皆さんが、丁寧に全部きれいにしてくれて。皆さんがいなければ、とても終わらなかった」と、温かい感謝のお言葉もいただきました。熊野川町の住民の多くが高齢の方。毎日元気に挨拶し、生活を取り戻すために一緒になって頑張ること。外から支援に入るボランティアにとっての重要な役割を、改めて感じる機会になりました。



### 新宮市社会福祉協議会職員 福島圭氏

当初は、新宮市社協にも、他団体から一緒に活動したいと申し出ていただいていたのですが、ピースポートさんは社協に寄り添ってくださる紳士的な団体だったので、ぜひ一緒に活動させていただきたいと思っていました。地元で活動する社協の立場を立てていただいたおかげで、うまく協力体制ができたと感じています。ピースポートさん無しでは、(災害ボランティアセンターの)運営はもっと大変だっただろう、と思っています。



## メディアでの紹介

10/6 紀南新聞「ピースボートの若者らも奮闘」／10/26 熊野新聞「丁寧にニーズ集め」／11/8 熊野新聞「ボランティアの拠点閉所」／11/29 紀伊民報「ボランティアを慰労」

## ご協力いただいた企業・団体（順不同、略称表記）

新宮市社会福祉協議会／熊野川行政局／紀宝町社会福祉協議会／たかみ交通／石巻市社会福祉協議会／石巻災害復興支援協議会／日本財団／たすけ隊大阪／ガリバーインターナショナル／Americares／Yourh for 3.11

その他、物資提供やご寄付など、個人の方々からもたくさんのご協力をいただきました。個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人おひとりの皆様に感謝申し上げます。

## 収支報告

(円)			(円)		
収入	助成金	2,200,000	支出	バス手配費	928,330
	寄付	75,769		車両管理費	82,920
	会費(サポート会員)	208,525		その他交通費	1,083,363
	合計	2,484,294		消耗品、備品代	308,862
		通信費		24,520	
		雑費、その他		56,299	
		合計		2,484,294	

※和歌山 台風12号緊急水害支援は、Americaresより、活動費金助成にご協力いただきました。



## 活動を振り返って



ピースボート災害ボランティアセンター  
和歌山・台風12号緊急水害支援  
ボランティア・コーディネーター  
鈴木隆之

今回の支援活動を通じて、災害における初動の大切さを学びました。地元との調整に時間がかかり、PBVの活動が本格的に始まったのは被害発生から10日後のことでした。素早く支援の拠点を立ち上げられるよう、普段から調整しておくことが必要です。拠点が決まっていなければ、地元の自治体や行政が中心となり、素早く受け入れ体制を整えられるかどうか、緊急支援の初動の大きなポイントだと感じました。

また、PBVが活動を開始するに当たり何より大事なことは、地元住民との親密なコミュニケーションだと思い、ボランティアには元気な挨拶だけは欠かさないように心掛けてもらいました。緊急支援を終え現地を離れる時、地元の方々とどういった関係ができていくことを目指すのか、当初からそのことを考えながら活動を続けました。これからも、東北やその他の災害現場に出かけていくことがあると思いますが、今回の経験を次に活かしていきたいと思えます。

最後に、今回は、新宮市や熊野川町の皆さんをはじめ、多くの団体から、そして多くのボランティアに活動を支えていただきました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

## 「サポート会員」になって、 PBV の運営を支えてください。

東日本大震災への被災者支援・復興支援をはじめ、国内外の自然災害における救援活動の初動資金、災害ボランティアの人材育成プログラムの実施には、PBV の運営に対する継続的な支援が必要です。皆様からの会費は、PBV の運営を財政的に支える基盤になります。

### ●サポート会員（1年間）

個人 一口 5,000 円

団体 一口 100,000 円

※二口以上のご協力も可能です。

### ●会員特典

- ・季刊誌「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・会員同士の集いの場にご参加いただけます。

### ●ご協力方法の詳細は

<http://pbv.or.jp/support-member.html>

---

### 「ピースポート災害ボランティアセンター（PBV）」

PBV は、東日本大震災への継続的かつ大規模な支援活動を展開するため、2011年4月に、国際NGO「ピースポート」が設立した一般社団法人です。ピースポートが1983年より行ってきた国際交流の船旅、そして1995年の阪神淡路大震災以降の国内外の災害支援のノウハウとネットワークを活かし活動しています。現在は、宮城県石巻市での復旧・復興支援を中心に、ボランティア・リーダーの育成などにも積極的に取り組んでいます。

ホームページ <http://pbv.or.jp/>

---

### 和歌山・台風12号緊急水害支援 活動報告書

発行：一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター

編集：向坂英明、鈴木隆之、合田茂広

発行日：2012年4月18日

写真：Mitsutoshi Nakamura

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL:03-3363-7967 FAX:03-3362-6073

E-MAIL:kyuen@pbv.or.jp

URL: <http://pbv.or.jp/>